

果樹農家のみなさまへ、時季ごとの耳より情報をお届けします



果樹の注目品種ランキング



- 本年1月12日の日本農業新聞に流通業者が注目する果実ランキングが発表されました(表)。
- 1位は12年連続でブドウ「シャインマスカット」であり、県内ブドウ農家にとって心強い結果でした。食味が良好で、食べやすい点が首位独走の主な理由です。国内だけでなく海外ニーズが高く、今後も人気は持続する見通しが濃厚です。
- 2位は愛媛県産カンキツ「紅まどんな」、3位は群馬県産リンゴ「ぐんま名月」が健闘しました。
- 山梨県産のスモモ「貴陽」、モモ「夢みずき」、ブドウ「富士の輝」の3品種も同票で23位にランクインし、今後の飛躍が予想されます。
- その他、今後、果物販売に求められるキーワードとして、「手頃な価格」、「スイーツ原料など実需ニーズ」、「輸出」等があげられました。

表. 2022年に注目する果実ランキング

順位	品種・ブランド
1	シャインマスカット (ブドウ)
2	紅まどんな (かんきつ)
3	ぐんま名月 (リンゴ)
4	紅秀峰 (サクランボ)
4	ピノ・ガール (スイカ)
6	とちあいか (イチゴ)
7	シナノスイート (リンゴ)
7	あまおう (イチゴ)
7	新甘泉 (梨)
10	ル・レクチェ (西洋梨)



登録品種の自家増殖に許諾が必要



- 農業版の特許法に相当する法律が種苗法です。昨年、一部改正され育成者の了解がないと苗木を購入しても、国外や国内他地域に持ち出せない点が明記されました。
- 従来は種苗を正式に購入すればその後の自家増殖は可能でしたが、さらに本年4月1日より育成者の許諾が必要となります。
- 種苗法改正の背景には、国内の優良品種が海外に流出し増産され第三国に輸出されている実状があります。
- ただし、制限の対象は品種登録された「登録品種」に限られ、在来種や登録が切れた品種等は「一般品種」となり、今までと同様に自由に増殖できます。
- 各品種の情報は農水省 HP で公表され、登録品種の苗木には制限がある旨の表示が義務付けられます。
- 登録品種は種苗法で守られますが、各品種の種類や栽培対象地域によって取り扱いが異なる場合があります。農水省 HP 等で十分にご確認のうえ、ご不明の点がありましたら関連指導機関に問い合わせるようお願いいたします。